

# シャルロット・ペリアンと日本 Charlotte Perriand et le Japon

2012年4月14日(土)～6月10日(日)

目黒区美術館

Meguro Museum of Art, Tokyo

〒153-0063 東京都目黒区目黒 2-4-36 tel.03-3714-1201(代) <http://www.mmat.jp>

午前10時～午後6時(入館は午後5時30分まで)

月曜休館(ただし4月24日から5月6日までは無休)

一般900円(700円)、大高生・65歳以上700円(550円)、中小生無料

\*障がい者は半額・その付添者1名は無料、( )内は20名以上の団体料金

主催：公益財団法人目黒区芸術文化振興財団 目黒区美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会

協賛：ライオン、清水建設、大日本印刷、損保ジャパン、日本テレビ放送網

後援：フランス大使館、日仏工業技術会、日仏美術学会、日本建築学会、日本建築家協会、

日本インテリア学会

特別協力：Archives Charlotte Perriand, Paris

協力：エールフランス航空、CASSINA IXC.Ltd.、CASSINA



シャルロット・ペリアン《オンブル(影)》1954年  
Photo: Shizuka Suzuki

© Archives Charlotte Perriand—  
ADAGP, Paris & SPDA, Tokyo, 2012

20世紀の建築とデザインに革新をもたらしたフランスの女性建築家・デザイナーのシャルロット・ペリアン(1903-99)。巨匠ル・コルビュジエの協働者として知られる彼女は、1940年に坂倉準三らの薦めで初来日。以来、戦後もたびたび日本を訪れ、日本文化のエッセンスと独自のモダニズム精神とを融合させた優れた作品を残すとともに、わが国の建築やデザインに新鮮な刺激と深い影響をもたらしました。本展では、ペリアンと日本との関わりに注目し、家具や図面、資料写真など約500点で彼女の創造活動を振り返ります。

## < 展覧会概要 >

シャルロット・ペリアンは、1927年のサロン・ドートンヌに出品した「屋根裏のバー」が認められ、ル・コルビュジエのアトリエに入所しました。そこでル・コルビュジエとその従弟ピエール・ジャンヌレとともに手がけた、鉄、アルミニウム、あるいはガラスといった新素材を用いた内装は、「住宅のインテリア設備」として、住宅に新しい概念をもたらしました。

1940年にペリアンは、かつてル・コルビュジエのアトリエで同僚だった坂倉準三や柳宗理の推薦により、商工省の「輸出工芸指導顧問」として初来日します。海外向けの工芸品の改良・指導を任された彼女は、柳宗理を助手に日本全国をまわり、仙台の工芸指導所の若い研究員たちに素材の扱いやデザインなど、ヨーロッパにおけるモダン・デザインの実践方法を示しました。

また、「民藝」運動の推進者である柳宗悦や河井寛次郎らとも交流し、「民藝」の理念に触れたペリアンは、地方に残る伝統的な意匠や技術を同時代の感覚と結びつける試みをしました。1941年の「ペリアン女史 日本創作品展覧会 2601年住宅内部装備への一示唆(通称「選擇 傳統 創造」展)で発表した《竹製シェーズ・ロング》はその一つです。このほかにも、彼女が提案した竹や木を素材とした合理的かつ現代的なデザインは、当時の日本のデザイン界に強く深い示唆を与えました。それは戦後のデザインの領域で鮮明な流れを作り出し、今なおたえず更新されながら脈々と生きています。

1953年から再び日本滞在の機を得たペリアンは、1955年に東京で「芸術の総合への提案—ル・コルビュジエ、レジェ、ペリアン三人展」を開催します。文案から着想した椅子《オンブル(影)》や違い棚をヒントにした書架《ニューアージュ(雲)》など、戦前の日本体験をデザインに生かした数々の名作を生み出しました。

ペリアンと日本の関わりは、日本の建築・デザイン界へ与えた影響ばかりではありません。自身が体験した日本の文化や美意識を、ヨーロッパのデザイン界へもたらしました。戦後、活躍の幅を広げ、1999年に96歳で世界を去るまで常に前を向き、第一線で創造し続けました。

本展では、シャルロット・ペリアンと、彼女が愛した「日本」との関わりを軸に、家具、インテリアに関する図面、写真や資料など約500点を紹介し、ペリアンと日本人とのあいだの感性の共鳴とその波及をたどります。今なお愛され続けるペリアンの作品と創造の人生を振り返ることは、今後の建築やデザインのあり方を考える絶好の機会となるでしょう。



シャルロット・ペリアン《竹製シェーズ・ロング》  
1941年/1985年再制作、Cassina



「芸術の総合への提案—ル・コルビュジエ、レジェ、ペリアン三人展」高島屋会場、東京 1955年

## ■ シャルロット・ペリアン略歴 ■

- 1903年 パリに生まれる  
 1927年 ル・コルビュジエのアトリエに入所(1937年まで)  
 1940年 商工省の招聘を受け、輸出工芸指導顧問として来日  
 1941年 東京と大阪の高島屋にて「ペリアン女史 日本創作品展覧会 2601年住宅内部装備への示唆」(通称「選擇 傳統 創造」展)開催  
 1946年 仏領インドシナを經由して、フランスに帰国  
 1955年 東京・高島屋にて「芸術の総合への提案—ル・コルビュジエ、レジェ、ペリアン三人展」開催  
 1985年 パリの裝飾美術館にて「シャルロット・ペリアン 生きる芸術」展開催  
 1996年 ロンドンのデザインミュージアムにて「シャルロット・ペリアン モダニスト・パイオニア」展開催(1998年には日本へ巡回)  
 1999年 パリにて逝去



シャルロット・ペリアン、銚子海岸にて 1954年  
 Photo: Jacques Martin

## &lt; 展覧会の構成 &gt;

## 第1章：日本との出会い 1929-1940

1940年に初来日するまでのペリアンをプロローグ的に紹介します。ル・コルビュジエのアトリエでの創作活動、そこで出会った日本人建築家、前川國男や坂倉準三との交流のほか、1930年代にペリアンが撮影した写真など紹介します。そして、1940年に日本の商工省から「輸出工芸指導顧問」として招かれた際の貴重な書簡や資料を展示します。

## 第2章：日本発見 1940-1946

はじめての日本。ペリアンは、柳宗理を助手に日本各地をまわり、柳宗悦、河井寛次郎ら日本美術界との交流を通して日本の伝統文化を体験し、手仕事の技や竹など日本の素材と出会いました。本章では、こうした体験が結実した「選擇 傳統 創造」展を紹介。また、1942年に日本を離れ、1946年にフランスに帰国するまで滞在中のインドシナでの活動についても写真、資料で紹介합니다。

## 第3章：戦後—日本との再会 1949-1960

1953年に再び来日するチャンスを得たペリアンは、1955年に「芸術の総合への提案—ル・コルビュジエ、レジェ、ペリアン三人展」を手がけます。日本文化のエッセンスとペリアンのモダニズム精神との融合で生まれた数々の作品とともに、戦後期の日本での活動とその影響を見ていきます。

## 第4章：フランス—暮らしの中の日本 1952-1993

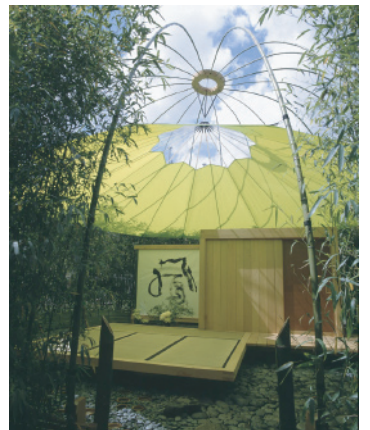
ペリアンは1946年、約5年ぶりにフランスへ帰国します。日本体験で得た知識や生活経験をもとに、フランスをはじめ海外に日本文化を発信します。1957年の「サロン・デ・ザール・メナジェ(家事芸術展)」でのペリアンの作品、ギャラリー・ステフ・シモンや在仏日本大使公邸、四季ファブリック・ハウスの内装設備、そして晩年にパリのユネスコ・日本文化祭で発表した「茶室」などを写真や図面、スケッチで紹介합니다。

## 第5章：生活と芸術—ペリアンからのメッセージ 1993-1999

伝統への敬意と同時に未来へのまなざしを持ち、常に前へ進んでいったペリアン。最後の章では、彼女が唱えた「生きる芸術」をキーワードに、ペリアンの生前最後の展覧会となった1998年に日本で開催された「シャルロット・ペリアン 20世紀のパイオニア展」の資料ほかでペリアンの足跡を振り返ります。



「選擇 傳統 創造」展 高島屋会場、東京、1941年  
 Photo: Francis Haar



ユネスコ庭園内《茶室》入口、パリ、1993年  
 Photo: Pernelle Perriand-Barsac, Jacques Barsac

## &lt; 本展カタログ &gt;

『シャルロット・ペリアンと日本』

「シャルロット・ペリアンと日本」研究会編、鹿島出版会、2011年／B5版・328ページ

※書店でもお求めになれます。定価 3,800円(税別)

## &lt; 関連催事 &gt;

会期中に当館学芸員または特別ゲストによるギャラリートークを予定。

※日時等詳細は決定次第、当館ホームページで発表します。

● 広報用写真をご用意しています。ご希望の場合は、別紙申込用紙にてお申し込みください。

All Rights Reserved, Copyright © Archives Charlotte Perriand—ADAGP, Paris & SPDA, Tokyo, 2012

目黒区美術館

〒153-0063 東京都目黒区目黒 2-4-36  
 tel. 03-3714-1201(代)  
 fax. 03-3715-9328

展覧会担当(学芸)佐川 / 広報担当(事務)天野

<http://www.mmat.jp>

## シャルロット・ペリアンと日本 Charlotte Perriand et le Japon

### 広報用画像一覧

※ 広報用画像をご希望の方は、送付申込書にてお申込み下さい。  
 ※ 広報用画像の無断転載を禁止します。  
 ※ 広報用画像の掲載の際には、図版キャプションおよび著作権表記の明記が必要です。

- 1 「選擇 傳統 創造」展 高島屋会場、東京、1941年  
Photo: Francis Haar



- 2 シャルロット・ペリアン《竹製シェーズ・ロング》  
1941年/1985年再制作、Cassina



- 3 シャルロット・ペリアン、銚子海岸にて 1954年  
Photo: Jacques Martin



- 4 シャルロット・ペリアン《オンブル（影）》1954年  
Photo: Shizuka Suzuki



- 5 「芸術の総合への提案—ル・コルビュジエ、レジェ、ペリアン三人展」 高島屋会場、東京、1955年



- 6 ユネスコ庭園内《茶室》入口、パリ、1993年  
Photo: Pernelle Perriand-Barsac, Jacques Barsac



# 「シャルロット・ペリアンと日本」展 広報用画像送付申込書

宛先：目黒区美術館〔担当〕 佐川・天野 宛

FAX 番号：03-3715-9328 E-mail：mmatoffice@mmat.jp

■ 本票に必要な事項をご記入のうえ、上記宛先まで FAX でお申し込みいただくか、メールにて本票と同内容の事項とご希望の画像番号をお知らせ下さい。掲載紙・誌を1部ご寄贈くださいますようお願い申し上げます。

お申し込み日	年	月	日
貴社名			
ご担当者氏名			
住所	〒		
TEL		FAX	
E-mail			
掲示媒体名 (雑誌名など)			
メディアの形態	【紙媒体】 新聞 / 雑誌 / ミニコミ誌 / フリーペーパー / その他 ( ) 【電子媒体】 テレビ / ラジオ / WEB サイト / 携帯サイト / その他 ( )		
発行・放送予定日	年	月	日
連絡欄			

■ 広報用画像は、画像データ(JPEG)でご用意しております。ご希望の図版の番号に○を付けてご指定ください。

1. 「選擇 傳統 創造」展 高島屋会場、東京、1941年 Photo: Francis Haar
2. シャルロット・ペリアン《竹製シェーズ・ロング》1941年/1985年再制作、Cassina
3. シャルロット・ペリアン、銚子海岸にて、1954年 Photo: Jacques Martin
4. シャルロット・ペリアン《オンプル(影)》1954年 Photo: Shizuka Suzuki
5. 「芸術の総合への提案—ル・コルビュジエ、レジェ、ペリアン三人展」高島屋会場、東京、1955年
6. ユネスコ庭園内《茶室》入口、パリ、1993年 Photo: Pernette Perriand-Barsac, Jacques Barsac

※ 広報用画像使用の際は、図版キャプションのほか著作権表記の明記が必要です。記載事項は画像とともに送付する案内書に従ってください。

## ■ 広報用画像について

- ・画像データはメールにて送付いたします。
- ・画像は展覧会紹介の目的のみ許可いたします。
- ・データを第三者に渡すことは禁じます。使用后、データは破棄してください。
- ・展覧会の名称、期間、会場などの情報は分かりやすく掲載してください。
- ・画像のトリミングは禁じます。文字載せも不可です。
- ・画像使用・掲載に際しては、添付するクレジットを明記してください。
- ・掲載誌(紙)は1部、当館担当者までお送りください。Web サイトは公開後に URL をお知らせください。
- ・当館が掲載内容を確認できるように、掲載前に校正をお送りください。

■ 本展を紹介して下さる媒体には、展覧会の招待券(5組10名様)を読者プレゼント用に提供いたします。ご希望の方は下記にご記入ください。

読者プレゼント用招待券を [ 希望する ・ しない ]

## 広報用画像に関するお問い合わせ

153-0063 東京都目黒区目黒 2-4-36 目黒区美術館  
TEL.03-3714-1201 / FAX.03-3715-9328  
展覧会担当(学芸)：佐川夕子(sagawa-y@mmat.jp)  
広報担当(事務)：天野ゆかり(amano-y@mmat.jp)